輝く目、響く声

高校は、いま

グローバルな視点育む

これまで発行された関高の記念誌を開くと、長い年月をかけて培ってきた伝統を見て取ることができます。

例えば、部活動。70周年記念誌には柔道部が全国大会へ連続12回（昭和38～49年）出場し、同58年に通算18回目の出場を果たしたことが、80周年記念誌には平成5年に陸上部の男子がやり投げで国体とジュニアオリンピックに出場したことが載っています。

伝統は今も健在で、柔道の女子個人で3年生が今年の全国高校総体に出場し、陸上部も投てき部門で常に好成績を収め、文系でも放送部と文芸部が全国大会に出場しています。

学業に関しては、平成15年4月にスタートした文部科学省指定「学力向上フロンティアハイスクール事業」が大きな飛躍をもたらしました。独自教材「関高スタンダード」の編集や、課題研究「高校生研究者たち」の実施によって、生徒のやる気や能力を引き出す、さまざまな試みがなされました。

では、今後の関高校の姿は？ということですが、本校は本年度に県教育委員会より「併設型中高一貫教育校設置のための研究」指定を受けましたので、このことを軸に学校改革を進めたいと考えています。「グローバルな視点を持った生徒を地域の学校が育てる」という理念のもとに、新しい学校の在り方や育てたい力をより明確にし、真に使える英語力の育成と習熟度別・少人数指導による学力向上を目指します。具体的には、1年生でのTOEFLジュニアの全員受検、留学希望者への支援の充実、電子黒板を備えた近未来型教室の整備とそれを利用したインタラクティブな授業（双方向・対話型授業）の開発などを実施していきます。（文・関高等学校長 安藤敏彦、挿絵・同校2年 可児盛明）

柔道と校舎風景

無断複製・転載を禁じます